

十月廿九日



定価 一月五圓 三月十五圓 半年三十圓 一年六十圓
 廣告料 五圓 以上 一圓五圓 以上 三圓 以上 五圓 以上
 日曜 祭日 休刊
 發行所 警警新聞社
 印刷所 警警新聞社
 電話 二二九番

肉食妻帯の是非

真織 雲山

佛教には持妻食肉、又は肉食妻帯、又は蓄妻噉肉といひて、婦女と同棲し、乃至魚鳥の肉菜、不淨の肉を食ふことを禁ずる、但しこれは出家についての制戒であつて、在家人に對しては必ずしも然らざるなり。もと／＼如来の正法は、恩愛を棄つるを本とし、慈愍を垂るゝを最とする。恩愛とは恩を忘れよではない。恩愛のきづなを断ちて棄てよである。そのきづなを縛らるゝところに自他を分別し、親疎の垣を築くことになる。排済も鬭争も一切の不平和は、そこから生るゝのである。その縁につながらきづなを断ち切ることによつて一切有情を本統に、純真にあはれみいつくしむといふ無縁の慈悲が沸き出るのである。

斯く慈悲を根本生命とする以上、先づ第一に自己の愛慾を断ち切らねばならぬ。愛慾の最たるものは淫慾と食慾とに如くものはない。この故に首楞嚴經には「淫慾あるを以ての故に生死を出づることを能はず」とあり。美人や牛肉が食ひたい

やうではとても生死の大事を超出することは思ひも寄らぬ。淫慾や食慾のことにばかり追ひなやまされてゐるのは饑鬼、畜生の姿であるといふのが、眞言宗の十住心の初めに説かれてゐる。異生羶羊心の説相である。されば淫事と殺生とは大、小乗教を通じて四重罪の隨一に教へられる。但し小乗教にあつては、三淨肉に限つてこれを食ふことが許さ

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 〇明日の献立〇
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

【朝】味噌汁ーかぶ 小皿
 わさび漬

【晝】野菜ライスカレー
 小付 福神漬

【晚】松茸土瓶むし（松茸 海老 うど）浸し物
 ほうれん草花かつを

れてある。三淨肉とは種類についていふたのではなく精神的にその由来を検討した考へ方である。即ち自分のために殺されたものであることを（一）見たり（二）聞いたり（三）その疑ひあるものを食ふことが三淨肉だといふのであるから、如上の三以外の場合は食ふも差し支へなしとの意である。この故に途上に魚が捨てられてゐるのは淨肉でありこれを拾ひて食ふは慈悲で

文藝募集

ある。漁夫の殺した魚を生かす所以である。反對に漁夫が獲りた魚を下駄で踏みじり捨て去る如きは、殺した魚を今一度殺す所以であつて、無慈悲これに過ぐるものはない。佛法とは一切萬物を活かすことを訓ゆるものであり、その生かすことが慈悲であるといふのは、ひとり生物に對してのみ言ふたのではない。人なき室に電燈をともしておくのは電燈を殺すものであり火鉢に火種があるのにマツチで煙草を吸うのマツチを殺すものである。活殺の妙機とは這間の消息に外ならぬ。

更に六親といふ場合、佛教にては父母、兄弟、妻子のことをいふので、三世三功の有情は畢竟この六親のひろがつたものであり、それが無始却來、展轉して親疎の因縁を結び合つてゐるのである。そこで肉といふからには必ず一度は生きてゐたものである筈であり、その肉を食うは前世の親を食へにひとしいと佛法は教へる。凡そ佛道に志するものは、象生を見ること自己の如くであらねばならぬ。

外科
 専門
 X光線科
 上田外科醫院
 平町南町
 電話 一二九番

是非!
 御融通には御用命下さい
 萬事便利な御相談に應じます
 公債、債券、質物一般
三井質店
 平・四 電六〇六番

美味...
 新鮮...
 ベーカリー
東京堂のパン
 是非御試食を!
 平橋樋小路
 電一〇八番
 徒弟入用

高久病院
 院長 醫學士 高久 忠
 副院長 新潟醫學士 赤羽 清
 藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄
 平町田町 電話五二三番
 内科小兒科 外科花柳病科
 耳鼻咽喉科 レントゲン科

松茸料始めました
 松茸どびんむし
 はもなべ 三十錢
 煮込なべ 三十錢
 鳥なべ 三十五錢
 豚なべ 三十五錢
 牛なべ 三十五錢
 よせなべ 三十錢
 ちりなべ 三十錢
 平二番茶屋裏通り
魚清食堂
 電話六三三

吸入用**酸素**純度 99%
 体温計
 寒暖計
關内藥局
 電話四〇番
 寫真材料一式販賣致シマス
開店お知らせ
 味覺の秋!
 空澄み人肥えるの秋!
 おでん 吞兵衛
 何卒可愛がつて下さい。
 平町町 錦水跡(末廣通)

縣下に誇る

學校衛生施設

明日平第一校に

視察者が参堂

學校衛生の向上發達を圖り、兒童の健康増進に資するた

め昭和三年以來縣下各郡市

樞要の地に開かれる縣主催

の學校衛生視察研究會は本

年平第一校が當番開催地に

當つたので今春來全職員が

協力一致衛生設備と資料の

募集に努め郡下小學校兒童

の過去十ヶ年間に於ける身

体の發育状況や疾病豫防及

び對策等に就いて手落ちな

く調査研究し愈々明廿一日

午前十時から開かれる同會

に是等の參考資料が提供さ

れる外左記の如き研究發表

があり縣下からの參集者に

同校の衛生設備に對し嚴察

な批判を乞ふとす

「學校傳染病に就いて」清

水校醫「視察所見及び指

示」村田縣視學「本校學

校衛生施設經營」篠山校

長「本校學校衛生要目に

木炭同業 指導員會

濱三郡木炭同業組合指導員會は二十二日午前十時から

平町團體事務所樓上に開く

が指示事項左の如し

△製炭指導 △指導報告

書提出 △炭窯調査 △

收炭率調査 △未加入者

取締、△賦課金督促

電柱移轉に

最後の態度

平町が重大協議

虫が好過る 磐炭側の要求

平町第四小學校敷地委員會

は明廿一日午後、町會終了

後議事堂に開き、磐炭所有

電柱移轉交渉に關し協議す

るが同問題は既報の學く磐

炭が電柱建設に當り一部地

主との間に締結した「地主

に於て必要の場合には磐炭側

で自費で移轉する」との契

約があり今回の移轉に對し

ては當然自費で工事すべき

に拘らず平町に對しての工

事の七分負擔を迫つて一步

も譲歩せぬが如きは本末顛

倒も甚しいと見られて居り

磐炭側の要求に對し何等か

最後の態度を決する爲めの

十一日平農業者會で行はれるが新米は最近の天候不順で一俵も未だ姿を見せず次回來月一日の共販頃より徐々出廻るものと豫想されて

あるが明日は飯野農倉の五等米約三十俵で相場豫想は出荷薄のため十一圓二、三十錢臺の高値を呼ぶものと見られてゐる

重要道路の改修に

費用の出途がない

草野大野相携へて陳情

草野村水品より大野村大字

山田小湊に通ずる村道は兩

村間の中樞地點連絡の重要

路線であるが從來幅員の狭

隘と勾配急のため車馬の通

行に困難を來たしてゐるた

め兩村當局並に村民は多年

これが改修方宿望してゐる

が近年の不況で疲弊困憊の

極にあるため工事費の負擔

に耐えぬと昨十九日芳賀草

野村長木村大野村長の兩氏

携へて平土木監督所に改修

方陳情するところあつた因

に同改修工事は幅員四米、

延長約一軒の工費一萬五千

圓餘である

異色ある運動會

女工さんの豪華な伊那踊り

平町片倉磐城製糸工場では

來月一日同町第三小學校々

庭で從業員慰安の恒例秋季

大運動會を開催することに

なつたが當日は男女從業員

四百餘名を總動員して各種

競技、餘興等に夫々趣向を

凝らす特に関運動會の特

異とする例の風變りな伊那

踊りを女工さん三百五十餘

名が豪華版的に展開するの

で早くも期待されてゐる

櫻井檢事講演 平區

櫻井檢事は本廿日午前十時

籠球大會 代表出場

縣下學童の籠球大會は來る十一月八日師範學校主催の

許に福島市に開催されるが

本島からは過般の郡下大會

に優勝した左記四チームが

代表出場する

△尋常科 (男子)平第三

(女子)同△高等科(男子)

平第一(女子)平第二

校長會議出席 既報

來る二十二日から二日間東

京教育會館に開かれる全國

青年學校長會に出席する篠

他種々協議する

山平青年學校校長は二十二日

半發午前七時二分の急行で

上京の筈

學校事務打合 平第

一、第二、第三各小學校の

事務打合せ會は來る二十四

日午後十時から第二校會議

室に開き十一月分の行事其

他種々協議する

安齊 外科醫院

平町・田町

電話四七五番

コロムビア・レコード

十一月新譜發賣

幻想交響曲 滿洲吹雪等其他

十月二十三日午後六時からマルトモホールで洋樂新譜試聽會を開催致します

誰何も入場無料是非御來場下さい

會田時計店 四丁目 電三六三番

金光堂時計店 五丁目 電一九五番

急告

十月二十一日午後六時より聚樂館に開演の大辻司郎一行は都合により延期になりました

期日は追つてお知らせ致します。十月二十日

大辻司郎後援會

各位

演習將士の

宿舍割當慎重

既報第二師團並に若松第二十九聯隊に依つて展開される機動大演習のため参加する將士二千餘名の宿舍は四

倉、草野、大野、大浦の一町三ヶ村に割當てられること決定、地元各郷軍分會では夫々聯絡目下宿舍の割當に腐心してゐるが更に軍馬

新米は……

姿を見せぬ

明日の俵米共販 石城販聯の俵米共販は明二

街のダニを突く

檢舉のメス鋭く

既に留置された者……

五十名に近い

平署では昨報の如く十八日拂曉より十九日にかけて全管内のダニ街のダニ一齊檢舉を行ひ十九日までに男女四十三名を留置すると共に更に掃蕩隊を進めて某方面から数名引致、既に留置者四十六名に達する異常な緊張振りを見せ齋藤司法主任その他署員總出動で取調べ

其筋の眼を晦し

移動賭場を

隣縣茨城迄も

繰り擴げた一味續々

別項「今次平署の暴力團狩りに依つて發覺した大賭博團の一味は小名濱町中島博徒小名家一家の大親分を氣取る鷹鳥こと若松惣吉(五)並に四倉町新町博徒親分田中三藏の跡目を次ぐ前科一犯伊藤駒次郎(三)の兩名外濱通りの博徒の親分數名が貸元として五十餘名の乾分を以つて賭博團を組織し地元小名濱町の料亭或は昨報の如く碇船中の漁船内部で開張、更に茨城縣から濱通一帯に亘つて各地に移動賭場を開張其の筋の眼を晦まし

燈火管制の

闇を利用

飲み逃げ二人

平町四軒町佐藤致中(三)同正月町上村末治(三)の兩名は去月四日夜同町新田町料亭かすみこと高木伊勢松方

檢舉は打切るが

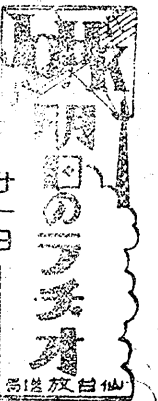
ダニの仲間ば……

今後も槍玉にあげる

柴田平署長の談

今次、平署の暴力團狩りは既に四十六名の「街のダニ」の檢舉を見て目下取調べ中であるが右に關し柴田平署長は

今回の暴力團狩りは本年四月から施行された新法令を適用して縣下一帯に執行されたもので所謂街



天 今晩は西の風曇 後晴 明日は北 西の風晴

前七、〇一朝の修「一證道歌」菅原時保 前一〇、三〇家庭教育講 座「青年期を迎へる男子」 兒玉九十 後六、〇〇お話「牧場」 戸田岩手縣小岩井農場長 後六、二五英語講座 大 宮健太郎 後七、三〇講演「近代戦 に於て軍の眼とし(働)く 光學兵器」多田禮吉 八、〇〇論曲「成陽宮」 梅若六郎他 後八、四〇マンドリン合 奏 東京マンドリンクラ ブ 後八、五五浪花節連夜三 題「天保水滸傳」玉川勝 太郎

今 晩 の 部 後六、〇〇歴史物語「元 寇」LKコードモザイク 後六、二五青年の時間 「國民體力の現状を述べ 青年の奮起を望む」小泉 親彦 後七、三〇講演「海軍々 費の國民經濟化に就て」 爲本博篤 後八、〇〇尺八 細田揚 九日平署に逮捕された

山他 揚聲會員 後八、二五管絃樂 大阪 放送交響樂團(桃谷中繼) 後八、五五浪花節連夜三 題「大瀬の半五郎」浪花 亭愛吉 後九、三〇時報 ニュー ス 明日の話題 氣象通 報 番組豫告 氣象通 報 明日の部 前六、三〇基礎英語講座 鹽谷榮

遭難坑内で

三箇の屍体發掘

他の五名絶望

十九日午後二時頃勿來町大日本炭礦勿來坑左内五坑地下千三百尺の坑内に大落盤あり作業中の坑夫十五名中七名は危く逃げ出したが残り八名は坑口が狭少のため逃げ遅れ、救助作業中本廿日午前八時に至つて 青森生れ工藤庄次郎(三) 同山崎助次郎(三)半島生 車甲文(三)

探炭夫橋本石造(三)大和 田一郎(三)木内朱(三)丁 進道(三)丁進徳(三) 尙遭難現場は蒸す様な高温 で作業全く困難を極め坑道 入口附近は遭難者の肉身が 子を呼び兄を慕ふ血の叫び をあげ昨夜來凄惨な地獄圖 を展開してゐる

赤井村大字赤井字畑子澤一 一五礦山業千葉慶吉(六)所 有山口炭礦事務所へ十二日 から十五日迄の間に賊忍び 入り被覆銅線(十番線)時價 二十五圓を窃取された

裁判一束

何時の間にか 銅線を盗まる

△川前村大字小白井字將監 小屋一六二農吉成直理(三) は去る四月中同村地内國有 林から植立木三百三十六本 價格三十圓六十錢分を伐採 今二十日平區中島判事から 森林窃盜罪として略式罰金 三十一圓に處された

成人氣の

磐女バザーに

景物的の催し數々

コロンピヤ

新譜演奏會

ピア十

磐女の一名物を 催されるが例に依つて生徒 の丹精の結晶であるエプロ ン、チャン/、コ、造花、 ベビー服、人形、化粧品等 の即賣品が各教室に山積し

催されるが例に依つて生徒 の丹精の結晶であるエプロ ン、チャン/、コ、造花、 ベビー服、人形、化粧品等 の即賣品が各教室に山積し

催されるが例に依つて生徒 の丹精の結晶であるエプロ ン、チャン/、コ、造花、 ベビー服、人形、化粧品等 の即賣品が各教室に山積し

催されるが例に依つて生徒 の丹精の結晶であるエプロ ン、チャン/、コ、造花、 ベビー服、人形、化粧品等 の即賣品が各教室に山積し



虎口を脱す

悟道軒圓玉(作)
丸尾至陽(書)

二五〇 虎口を脱す
官軍の兵士は五人、七人打ち連れて森のうちに入り、それにある落を取る、これは晩餐の菜にするため、すると熊笹の中に忍んでぬたは幕軍の喇叭手櫻井文大夫文「これは大變だ、俺は味方引き揚におくれてこ、へ飛び込んだが此奴らに見出されては捕虜となるであらう、捕へられればこの首は飛ぶ、戦ひで死ぬはかねて覺悟のこと、悲しむところもないが、こゝで捕へられて首を打ちおとされるは残念、見つけられぬやうに用心せざるまい」

となほ奥深く熊笹の中に潜んだ、そんなことゝは知らぬ官軍の兵士
○「敵も強いのう、彼等は死にものぐるひであばれまはるよしかし考へると馬鹿な奴だ、援兵も来たらぬを知らぬから僅三千か二千の兵で我軍と戦うとは、ほめれば武士道を發揮した行ひであらうが又一方から申すと命知らずの馬鹿者だナ」
△「悪く申すな、そこが武士の意気地だ、敵ながら彼等の意気は賞すべし、まあそんなことは何うでも宜い

がこの落も大きいぞ」といひつゝ、落を取りザクザクと熊笹をよむ、文太夫は二三度踏み付けられた痛いとついで聲を出すことは出来ず、デツとそれをこらへてゐる、うちに官軍の兵士は落を持つて出て行くそのうちに日はまづたく暮れて夜の幕がおりた熊笹から這ひ出した文太夫はホツ



ト一息ついて木古内の本隊へもどる
○「止め」
番兵がとがめた
文「誰だ、俺は敵ではねえぞ、喇叭手の文大夫だ」
○「お、文公か、貴様が見えぬから何うしたかと案じてゐたがよく戻つて来たな怪我もせぬか」
文「ウム、頭と腕と足をやられたぞ」
○「それは氣の毒千萬、一體貴様は喇叭手でありながら弾丸の来るところへ行くから怪我をする、それ弾丸

文「さうだらう、これは鳥とぶよに刺された傷だ、俺は引きめげにおくれて森の中へ飛び込み、熊笹の中にもぐつてゐると鳥が背負つてゐる掘り飯を食はうとして袋をつき破り果は頭を突き、そこへぶよがあつまつて手となく足となく刺した、これは戦ひをするよりつらかつた、すると官軍の兵隊が来て晩飯の菜にすといつて落をとつてゐる、それだから俺はその森から這ひ出すことが出来なんだ、イヤ困つたよ、その中に兵士が引きあげたから俺も出て来たが、後の話の種とこれ見なさい落をとつて来た」と冠り笠程ある落をそれへ出した、折しもこゝへ見

まわりに来たは軍目付村田金三郎
村「イヤ文公、助かつたか何に鳥とぶよの爲めにひどい目に會つたと、しかしえらい奴だな、その苦痛をしのんで敵の引きあげるを待ち悔々とこゝへ引揚るとはえらい、さアゆつて休息しろ」
とこの勇敢なる行爲をほめた、前にも申した通り櫻井はこの時十四歳、さてこの木古内には新しく鎮壁をきづいて敵の押しよせるを待つた、次に二股口は何うなつたといふにこの戦ひは猛烈でした、官軍も幕軍も必勝を期して戦つた、もつとも幕軍の指揮官はかつて新撰組にて近藤勇とならび稱された土方歳三です。

耳鼻咽喉科専門 鈴木醫院

醫學士 鈴木 正男
平町田町 (電話五八番)
藤田女學校前
自炊のお需めに應ず
入院の便あり

かまぼこ

製造

お茶屋

平町一丁目

不孫實

お惣菜用 さつま揚 吉原揚
電話一四一番

佛造花 橋本屋

平町一丁目 電話一三六
新川三丁目

福島縣平町二丁目
西村屋藥局
藥劑師 鈴木堅助
電話 三番
振替(東京六)二九九
仙臺一・二〇一

眼鏡

最新式 廉價 各種製レンズ

正確にして 廉價
根本時正
平町二丁目 電話七〇六